



医療法人SIRIUS いしが在宅ケアクリニック(三重県四日市市)

全国有数の看取り数を誇る 在宅特化型クリニックの取り組み

～“四日市モデル”を全国に広めるために～

三重県四日市市で在宅医療専門のクリニックを運営する医療法人SIRIUS。その理事長である石賀丈士先生は「患者さんが満足し、苦しむことなく、人生の最期を自宅で迎えられるよう力を尽くす医療」の実践に取り組み、いしが在宅ケアクリニック開設後、わずか数年で全国でも有数の看取り数、看取り率を誇るクリニックへと育て上げた。さらに、地域全体で“四日市モデル”を構築し、全国から注目を集めている。今回、同クリニックを訪問し、石賀先生の在宅医療に対する想い、全国トップクラスの看取り数を可能にした独特な経営方針・運営システム、さらに“四日市モデル”や今後の展望についてお話をうかがった。

「長年住み慣れた自宅で思いのままに 過ごして最期を迎える患者さんを増やしたい」

石賀先生は大学病院を経て、市中病院、診療所に勤務後、介護施設の経営にも従事し、在宅医療や他職種への理解を深めていった。そして2009年7月に在宅医療専門のいしが在宅ケアクリニックを開設した。その背景には大学病院時代の経験があるという。

「当時、欧米の文献を見ると、看取られる場所として1/3が自宅、1/3が施設、そして1/3が病院と書かれていました。それに対して日本では1割が自宅、1割が施設、そして残りの8割が病院で看取られており、非常に違和感をおぼえました。大学病院で、痛みや苦しみに亡くなっていく多くの患者さんを目にしましたし、大半の人が病院で最期を迎えるのはおかしいと感じたのです」

長年住み慣れた自宅で思いのままに過ごして、安らかに最期を迎える患者さんを増やしたい、その強い思いから開設したクリニック。医師は石賀先生一人、全スタッフ5名でスタートしたが、現在、開院8年目にして常勤医師8名、非常勤医師1名、看護師12名、ケアマネジャー4名、医療事務14名、計39名となり、新規訪問患者さんは年間約500名、そして年間約300名を在宅で看取っている。

「開院初年度は私一人で訪問診療を行っていて、新規の患者さんは100名ほどでしたが、それが今では約500名になっています。初年度は100名という患者数に満足していましたが、今思うと400名もの方を受け入れられずにいたのだなと感じています。しかし今でも『自宅で最期を迎えたい』と思われている患者さんやご家族が、もっとおられると思います。今後はより多くの患者さんを受け入れられるように、さらに体制を整備していきたいと考えています」

石賀丈士 医療法人SIRIUS 理事長
いしが在宅ケアクリニック 院長

訪問診療は患者さん一人に 平均30分か、看護師が必ず同行

日々の訪問診療において同院では必ず「平均30分の時間をかけること」と「看護師が同行すること」を徹底している。在宅で療養されている患者さんやご家族にとって不安なことはたくさんあり、そうした患者さんやご家族の気持ちを重視し、石賀先生は診療にじっくりと時間をかけるスタイルを選択した。

「医師と看護師の2人でじっくりと患者さんやご家族の話に耳を傾け、こちらからの説明も丁寧に行うことで、少しでも不安を払拭したいと考えています。医師は患者さんやご家族の生活の細かい部分まではなかなか目が届きませんが、そこに目を配れるのは看護師の力です。さらに他の医療職や病院への報告など、看護師が果たす役割には大きな期待を寄せています」

その看護師だが、実は普段患者さん宅を訪れて看護を行っているのは、同院とは別の組織である訪問看護ステーションの看護師である。これについて石賀先生は「床ずれや日常生活における様々なことを支援するのは、訪問看護ステーションの看護師が中心となって行っています。在宅医療には訪問看護師の活躍が不可欠ですが、クリニック開設当初から自分たちで担おうとせず、地域の訪問看護ステーションにお任せしようと考えていました」と話す。そうすることで地域全体として在宅医療提供体制を充実させていきたいという考えがあるのだという。では、訪問看護ステーションの看護師と訪問診療時に同行する同院の看護師との役割分担はどうなっているのでしょうか。



診療室でスケジュールやカルテなどをチェック



明るく機能的なスタッフ兼ミーティングルーム

憩いの場として活用されている
ゆったりとしたスペースのベランダクリニック内に設けられている
託児ルーム

「当院の看護師は日常のケアではなく、医師を指導する係として同行してもらっています。医師の方針などに違和感をおぼえたら報告してもらおうのが主な役目です。また、医師と看護師の二人で訪問すれば、一人が何かの作業に集中していても、もう一人が患者さんやご家族と会話を続けることができます。そうした役割を期待しているので、看護師が同行しなくても保険点数は同じですが、必ず同行するようにしています」

医師と看護師の二人体制で患者さん宅を訪問しているのは、地方ならではの効率を考えた側面もあるという。同院の医師は1日に8～10軒ほどの在宅患者さんを訪問する。10軒とすると診療時間が〔30分×10軒＝5時間〕となる。さらに1時間は食事などの休憩時間。ミーティングなどが1時間。そして移動時間に2時間。1日の勤務時間は概ね、そうした構成になっている。その2時間の移動時間を有効に活用するために、看護師が車を運転し、その間、医



看護師と共に訪問診療に出発

いしが在宅ケアクリニックの取り組み

2009年7月開院
三重県四日市市:人口31.2万人
緩和ケアを中心としたクリニック

(現在訪問中)
自宅 約320名
施設 約180名

年間在宅看取り数
2015年 312名
2016年 274名

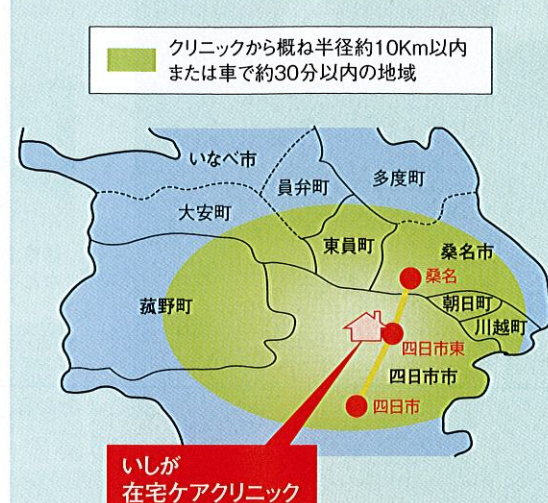
訪問診療数と年間在宅看取り数



新規訪問患者数の推移



在宅看取り数の推移



訪問診療の範囲

地域とのつながりを大切に

- ◆訪問看護ステーションを作らない
- ◆入院施設を作らない
- ◆施設を作らない

スタッフが疲弊しない仕組みづくり

- ◆17時終業、有給休暇は全消化
- ◆1日の訪問件数は基本10件まで
- ◆夜間休日は医師がファーストコール対応
- ◆看護師は日中の業務に専念(連携・診療補助・運転)

人材育成

- ◆多様な人材を集める
- ◆緩和ケアのプロフェッショナルを育成する
- ◆医療は究極のサービス業であるという意識

運営の基本的考え方

かりと役割分担をしたからこそ生まれた流れであり、それこそが今日の「四日市モデル」の礎になっている。

「医師会の先生方には『診ることができる患者さんは、ぜひご自身で受け持ってください』とお願いしています」と石賀先生は話す。「長くかかりつけ医に診てもらっている患者さんからすれば、馴染みの先生に診てもらう方が安心でしょう。しかし、がんの終末期や、難病など中～重度の患者さんや、高齢独居などの患者さんであれば、私どもへ紹介してもらっています」

石賀先生が提

唱する在宅医療のモデルでは、かかりつけ医は「一次在宅」として年間5名程度の看取りを受け持ち、在宅療養支援診療所が「二次在宅」として医師1～2名で年間20名程度の看取りを行う。そして、いしが在宅ケアクリニックのような在宅特化型クリニックが4名以上の医師で年間100名以上の看取りを行っていく。このような役割分担を行うことにより、地域全体で在宅医療の充実を図ることを目指している。

人生の最期を各々が望む形で迎えられるようにするために

「クリニック開設当初、医師会を始めとする地域の先生

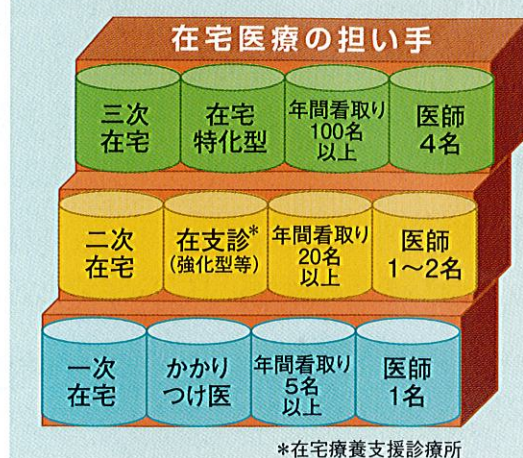
方には私の考えを理解していただきましたが、訪問診療を希望する患者さんがいるかどうか随分心配されました。地域の皆さんからは、何をやるクリニックなのかよくわからないと言われて、理解していただくのに時間がかかりました。しかし始めてみると、初年度から多くの患者さんの在宅療養をお手伝いすることができ、四日市では存在を認知していただけるようになりました」

常勤で8名在籍している医師を今後は15名程度まで増やし、カバーするエリアも少しずつ拡大しながら、自宅で安心して最期を迎えたいという患者さんを

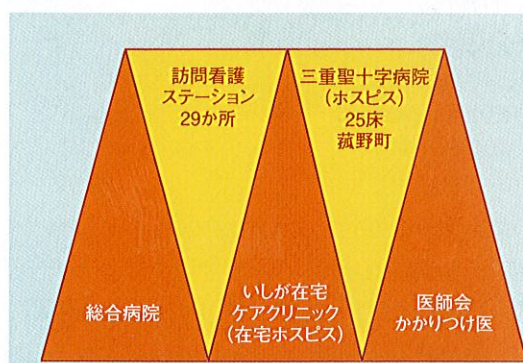
ケアしていきたいと石賀先生は話す。現在、同院の患者さんの看取り率(診察した患者さんが自宅で亡くなる割合)は85%前後だという。その他は、「施設が空いたので入所した」「家族が自宅での看病に疲弊してしまったので他所へ移った」「骨折など急病で入院し、そのまま病院で亡くなった」などというケースだ。患者さんが自宅で最期を望むのであればそれを実現するために、今後はご家族へのフォローや急病への対応をさらに強化し、看取り率を向上させていきたいと石賀先生は考えている。

「これからは四日市の在宅医療をさらに充実させると同

四日市モデルの概要と成果



在宅医療の担い手の役割分担

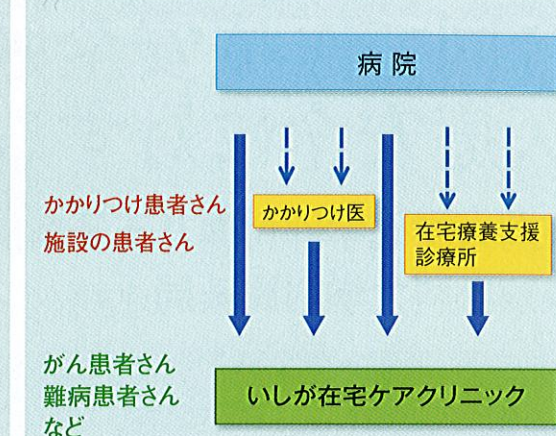


四日市市のがん患者さんを支える医療資源

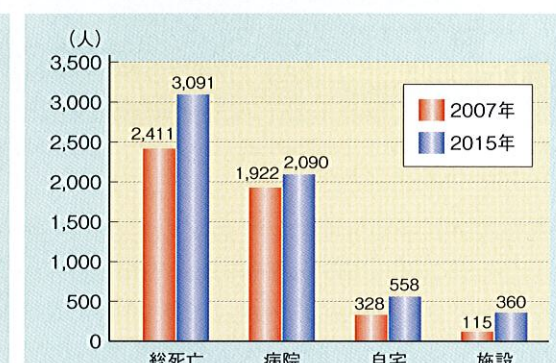
	四日市 2007年	四日市 2015年	全国 2015年
自宅	13.6%	18.1%	12.7%
施設	4.8%	11.7%	8.6%
病院	79.7%	67.6%	76.6%

(出典: 四日市市、厚生労働省)

四日市モデルの成果(看取りの場)



病院から在宅医療への流れ



四日市市における死亡場所の変化

- ◆病院、かかりつけ医、在宅医が共存できるしくみ作り
- ◆地域資源をフル活用
 - 自前の機能は最小限に
 - 訪問看護はすべて外部と連携
 - 入院施設、介護施設は作らない
- ◆レスパイト先の病院と連携
- ◆ホスピスと連携
- ◆緊急入所先の介護施設を確保
- ◆患者さんに合わせたローコストかつ質の高い医療の提供

地方における在宅ネットワークの構築と運営のポイント

時に、教育機能的な機能も強化し、当院で学んだ医師が全国で在宅医療に取り組み、自分の望む形で最期を迎えられる患者さんを増やしていければと思っています」

石賀先生の視線の先は四日市の未来だけではなく、日本全体の在宅医療の未来を見据えている。

PROFILE

名 称: 医療法人 SIRIUS いしが在宅ケアクリニック
開 設: 2009年7月
所在地: 四日市市山城町770-2
院 長: 石賀丈士

撮影: LIVE ONE 菅野勝男、p.13左上の写真は石賀先生提供